



パレットナインからさいおんスクエア

(7月のごあいさつ)

平成 26 年 7 月 1 日 (火)

梅雨が去って、真夏の太陽、蝉の声、青い空、藍い海…将に沖縄の季節です。

観光シーズンに入った沖縄・国際通りを歩いてみた。

戦後の焼け野原から発展を遂げた「**奇跡の1マイル**」は、距離もありスケールの大きい、正に**沖縄の中心商店街**である。

しかし、電柱、電線、居酒屋、似たようなおみやげ屋がやけに目につきスマートさと美しさが無い。それは**沖縄らしさ**とは少し違った風景である。観光客は多いようだが、地元客はほとんど歩いていない。いつの間にか少なくなった沖縄のイメージの中で、平面的で上への広がりにも乏しく、通りの周辺にも発展の厚みがないように感じた。そんな中で国際通りの中心にある**Mデパートの閉店**が新聞で報じられた。

先日、機会があつて神戸へ行った。

JR、阪急、地下鉄の雑踏に目を奪われながら、**さんちかから三宮センター街**を歩いてみた。商店街の長さは400m弱であったが、センター街の両端にデパートが位置している。**アーケード街**は地下1階と地上7階建であった。地下～3階は主に物販やサービスの商店街で、4～7階はセミナー会場や事務所などに利用されていた。通りは、清掃が行き届き、清潔でお店の看板も何となく品があり、顧客は観光客もあるが、どちらかという**京阪神の地域の客**が主流であった。少しの時間ではあつたがセンター組合の役員の方々とも話をさせていただき、商店街に対する街と人に対する思い入れを強く感じた。

3階まではアーケードの屋根があり、雨の日も通行や買物に不便はない。また、商店街全体に厚みと安定があり、地域の支持が感ぜられる。

パレットくもじのデパートはフロアの改装が進み活気を取り戻している、**さいおんスクエア**は建設後まだ新しくそれぞれ地域の人の集まりがある。これらの施設を起点・終点として国際通りを面として再開発する必要があるように思えた。両端をいくらきれいにしても商店街を再構築し、にぎわいを取り戻すには無理かもしれないが、地盤沈下して行く国際通りを何とかして取り戻す必要がある。**地元客の足が遠のいた中心市街地の活性化**には、今の国際通りに足りない地元客を観光客とともに取り込める新しい工夫が必要であり、国際通り自身の生まれ変わりが必要である。高層でなくとも、全天候型の昼間の日差しも、雨の日も気にならない**沖縄独特**の明るい、活気のあるアーケードができるだろうか。

アーケードのない商店街は、点としての商店街にならざるを得ない。国際資本が通り沿いの土地を買収し、**大規模なショッピングセンター**を建設したとしても、観光客主流の観光スポット以上のものにはなれないような気もする。それでは中途半端で沖縄の地元客と観光客の支持するメインストリートには程遠い。